

今月の聖句

隣人を自分のように愛しなさい

ルカによる福音書10章25~37
律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」イエスは専門家に言った。「聖書には何と書いてあるか」「あなたの神を愛しなさい、隣人を自分のように愛しなさい」

今月の聖句はとても有名な話の発端です。隣人を愛しなさいと言われた専門家は質問します。「隣人とは誰のことですか。」それにイエスはたとえ話で答えられました。わたしにとって隣人とは誰だろう。皆さんはどう思いますか。近くにいる人、家族。出会った人。いろいろ定義することができるでしょう。このたとえ話でイエスが定義した隣人は、このわたしを最も必要としている人です。例えば電車に乗ろうとしたらホームで突然、高齢者が倒れました。皆さんならどうするでしょうか。「すぐに駆け寄って助ける。」そう答えた人は優等生です。しかし実際には、飲酒をしているかも知れない。何かに巻き込まれたくない。待ち合わせに遅れてしまう。予定が滅茶苦茶になってしまう。そう思って近づかないようにするのはない

でしょうか。誰かが助けるだろうから、自分がする必要はない。多くの人は無関心で通り過ぎます。それは今に始まったことではなさそうですね。たとえ話でも誰もが通り過ぎたと伝えられています。しかしもしもその高齢者が、私たちの知人だったら、家族だったら。反応は違うでしょう。通り過ぎようとはしないでしよう。近づいて、何が起こったかを確認し、何が必要かを判断し、周囲の人に声をかけて助けを呼んだり、何らかの行動をするでしょう。イエスは知人だろうが、そうでなかろうが、今、目の前に倒れているなら、その人は隣人だ。家族だと考えなさいと言うのです。一人の人間として、大切にしていきなさい。聖書では愛しなさいという表現を使いますが、家族として大切にしなさいと言う方が分かりやすいのではないのでしょうか。誰が隣人だろうかと考えるのではない。すべての人が隣人だ。隣人が困っているのに、何もしないのはおかしいとイエスは訴えます。「心を尽くし、魂をつくし、力を尽くし、思いを尽くし、あなたの神を愛しなさい。」これはユダヤの人々は最も大切な掟だと知っています。神を愛するということは、自分が大切なように、隣人となっていくことがいくことだとは考えませんでし

た。決められたように敬虔な生活して、荘厳な礼拝を捧げる。供え物は欠かさない。神はそんな人を喜んでくださって、大きな恵みを与えてくださるはずだ。それが一般的な考え方でした。自分が今、恵まれた生活をしているのは、そうやって生きてきた神からのご褒美だ。一方で隣人を愛しなさいということも知っています。しかし愛する対象は限定されだろう。そうでなければやってられない。喧嘩して相手の存在を否定したくなることもある。恩知らずもいるし、神を信じない人もいる。病気になるのは、恵まれた生活ができないのは、神に対して何か怠り、怒りを買っているからだ。そんな奴に近づいて自分も神の怒りを買うようなことがあってはいけない。そんな奴と家族になれるか。

わたしたちはこの世界でどのように生きていくことが神に喜ばれることでしょうか。教会に集まる信者さんも誤解してる場合が多いのです。敬虔な生活、礼拝を守る。聖書を読む。それだけで良いのだ。困っている人がこの世界に生活しているのは知っている。しかしそんな人を助けるようなこと、愛していくことは難しい。高齢になった。そんな財力も権力も持っていない。誰かがやってくれるに違いない。そんな私たちの現実に、今月の聖句は私たちの生き方に疑問符を投げかけます。聖公会八王子幼稚園に関係している人はみな家族です。園児も、保護者も、教

職員も、幼稚園に接する教会につながっている人、この近隣に生活している人々……。私たちはいつも目を見開き、耳をそばだてて。家族の声を、家族の生活を知ることが必要です。家族のためにできる限りのことをする。そんな人になって欲しい。それが神の願いだと言われていきます。やがて子供たちが卒園し、学校に行くようになり、社会で生きるようになる時。この世界は自分が良ければよいのだ。すべては自己責任だ。困っている人がいようと悲しんでいる人がいようとそんな人は自分とは何の関係もないというような考えをしないような大人に成長して貰いたいと願っています。成長した時に、この聖句を思いだしてくれることを祈っています。私たちは一つの家族だ。どんな人でも無視したり、見捨てたりすることをしません。しっかりとこの思いを大切にしていけますように。

チャプレンと話そう

毎週月曜日、子ども礼拝の前にホールでお話しませんか。話題は自由。気軽に立ち寄ってください、

教会の礼拝

毎週 日曜日 7時30分 聖餐式
10時30分 聖餐式
16時 夕の祈り

どなたでも参加できます。歓迎します。家族で祈りましょう。